

手芸倶楽部新聞

2014年
6月23日号
第13号

第十三回の手芸倶楽部もたくさんのご参加をいただきました。造花フラワーアレンジでは、ヒマワリの花をたくさん用意して、夏らしいアレンジを作っていました。

また、裁縫の得意な方々は、金魚の様な巾着を作られたり、ポケットティッシュカバーを作ったりしていました。

なかには、フラワーアレンジした後に、お裁縫をされる方も。限られた時間を一杯、楽しんで下さっている様でした。

また、手芸倶楽部でお友達ができた方々は「お久しぶり！」「元気だった？」「と、世間話にも花が咲いていました。

さらに、職員に「ズボンのゴムを入れ替えたいのだけど・・・」「丸首シャツの裾を詰めたのだけど・・・」等、自らのリメイクを相談されたり、「いらぬブラウスがあるのだけど、巾着袋に縫えないかな？」と、いろいろなアイデアをいただきました。それぞれアドバイスさせていただきましたが、皆さんご自身で繕われていきます。皆様からアイデアをいただくことは、今までにみられなかったこと。皆さまに積極性が出てきたことを嬉しく思います。



伊藤機能訓練指導員より

金魚の巾着は夏を感じさせる素敵な作品となりました。納涼祭などの行事で、これまでの作品をお披露目できればと考えています。

次回は七月八日(火)、地域交流室にて十五時より開催予定です。〓見学も大歓迎です。

手芸のコツ

ファスナー付けやパイアステープを使った端の始末、ギャザーを寄せる作業等、ちょっと難しそうに見える作業ほど、できあがったときの達成感は大いいものです。「自分でファスナー付けができると思わなかった」と大きな自信にもなっているようです。家族や職員が手伝っても良いので、ちょっと難しそうなお作業にも、チャレンジしてもらおうよう、促していきましょう。それが、裁縫を好きになる大きなきっかけになるかもしれないからです。しつけをかけたリ、アイロンをかけたリして、縫いやすいように手間暇かけるのが、上手に縫って頂くコツです。

新メニュー紹介

今回、新メニューはないのだけれど、縮緬風の布地でシンブルな巾着を作りたいという要望が複数ありましたので、その材料を準備しました。また、ポケットティッシュカバーのアレンジで、ボックスティッシュカバーも作ってみました。



カバーを作る前は、ティッシュボックスに名前を書いていたので、見栄えが悪いということ、利用者さんの希望で、それぞれ違う柄の布を使ってカバーを作りました。こういう実用的な物も、どんどん作っていききたいと思います。

編集後記：針を使う作業は危険を伴うので、職員が一瞬たりとも目を離さず見守りすることが条件になっています。それでは時間が限られてしまうので、ちょっとだけ席を外す可能性があるときにやるレクとして、写真立て作りをしてみました。裁断時は見守りが必要ですが、その後は利用者様だけで作れます。右の写真は右麻痺のある利用者様の作品です。お孫さん、息子さんとの思い出の写真を素敵なフォトフレームに仕上げました。(平戸)

